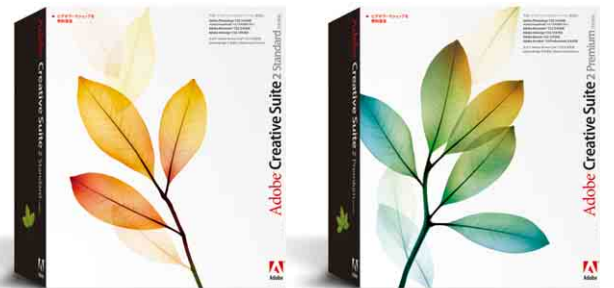


エッセンシャルガイド「グラフィックユーザーのための機能ハイライト」

Essential Guide For Graphic Users



Adobe SING 外字ソリューション

Adobe Creative Suite 2 日本語版



SING

自分だけの「外字」を素早く、手早く作ることができる環境です。

SING外字ソリューションは Adobe Creative Suite 2で追加された日本語版独自の新機能です。SINGは柔軟な外字ワークフローをデスクトップ上で実現するための画期的なテクノロジーです。



濁点付きの「あ」。
小説やマンガの吹き出しなどでよく使われる。
ありそうでない文字の1つ。



「龍」を4つ組み合わせた「テツ」
(多言の意)。画数の多い漢字の例としてよく引合いにされる。
さすがのOpenTypeも作字が必要。



変わった書体をノンブルとして使いたい。
スク립ト体を集合させた文字を作ってみる。

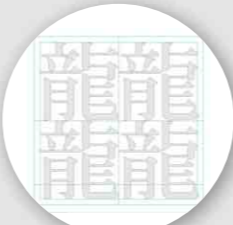
SINGとは何か? SINGとは、無数に存在する外字(字形)をコンピュータ上で容易に再現するために考えられたアーキテクチャです。従来、文字コードに含まれない文字(字形)は、外字として作字するなど特別なワークフローを必要としていました。外字問題は、編集やデザイン、組版、校正、出力といった各工程において非効率な要因となっています。例えば、小説やマンガの吹き出しなどでよく使われる濁点付きの「あ」や、画数の多い漢字の例としてよく引合いになる「龍」などなど……。さすがのOpenTypeも外字問題がすべて解決できる訳ではありません。そこで登場するのが「SING外字ワークフロー」です。SINGワークフローでは、「グリフレット」(拡張子はgai)と呼ばれる小さなフォントファイルを用いたDesign CS2などのSING対応アプリケーションに埋め込みます。外字フォントをドキュメント自身が持つことで、各工程でグリフレットの存在を気にすることなく、入力や編集、出力などに一貫性を持った作業が可能になりました。グリフレットは、従来の文字コードを持った文字セットという考え方からは一線を画しています。グリフレットファイルは、1文字分の字形情報と付属情報(親フォント、字幅、読み、言語など)を持っていきます。つまり、文字の字形表現を文字コードと切り離し、完全な字形情報としてドキュメントに取り込んで運用するのです。

SING—グリフレットとは?

「グリフレット」は、外字ファイル(拡張子は「gai」と呼ばれる小さなフォントファイルとして保存されます。「グリフレット」は1文字分の字形情報と付属情報(メタデータ)を持っています。使用される「グリフレット」は、フォントに組み込まれた文字として扱われ、保存する時にドキュメントに埋め込まれます。外字フォントをドキュメント自身が持つことで、「グリフレット」の存在を気にすることなく、入力や編集、出力などに一貫性を持った作業が可能になりました。

1

グリフレットの作成

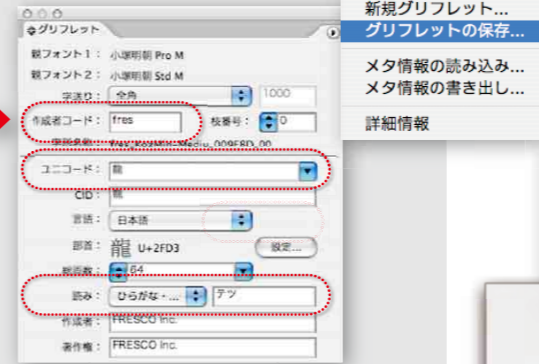


▶テキストのアウトラインを作成します。位置をガイドに沿って調整し、パスの編集を行ってグリフレットの保存をします。

グリフレット作成を使い慣れたIllustratorで

Illustrator CS2を使えば、ユーザーが必要な時にグリフレットを簡単に作成できます。書式/グリフレット/パレットメニュー/新規グリフレット...を選べば、自動的にグリフレット用のひな形ドキュメントが作成されます。親フォント、スタイルおよび字形の縦横別の指定や字幅・読みなどの必要なメタ情報を入力します。グリフレット/パレットメニュー/グリフレットの保存...を選べば、グリフレットが保存できます。

*グリフレットを作成するには、Adobe Creative Suite 2日本語版をインストールする必要があります。



▶囲み部分は入力の必須項目です。入力しないと(警告アイコンが表示される)グリフレットとして保存できません。各項目の詳細については、ヘルプより「グリフレットパレットの設定」を参照してください。

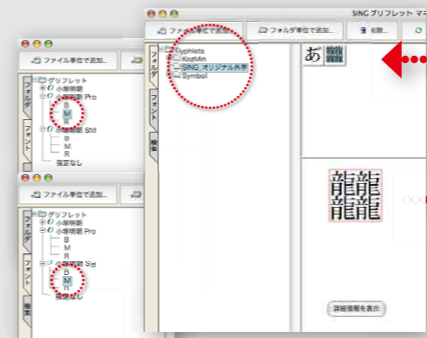
2

グリフレットの管理



グリフレットを容易に検索、管理

SINGグリフレットマネージャは、グリフレットを手軽に管理するための簡易ユーティリティです。ローカルディスク内のグリフレットを親フォント・部首・総画数およびユニコードとCIDをもとに検索することができます。また、グリフレットをシステムに追加インストールしたり、削除を行う際にも使用します。グリフレットは、ファイル単位またはフォルダ単位で追加でき、追加されたグリフレットは所定の場所にコピーされます。不要になったグリフレットは、グリフレットを選択し「削除」ボタンをクリックすればアンインストールできます。



▶グリフレット情報の表示は、左端のタブと表示メニューの組み合わせで自由に切り替えることができます。詳細な方法については、ヘルプより「Adobe SINGグリフレットマネージャ」を参照してください。

3

グリフレットの使用



InDesign CS2/InCopy CS2で使うSING

グリフレットを使用したドキュメントを保存すると、グリフレットは自動的にドキュメント内に埋め込まれます。ドキュメントに正しく埋め込まれたグリフレットは、システム上のグリフレットの有無に関わらずドキュメントに表示され、印刷およびPDF書き出しが可能です。従来のワークフローで一般的であったアウトライン化は必要ありません。

外

グリフレットの特徴

- ▶ 1文字分の字形情報と付属情報(メタデータ)で構成されている。
- ▶ ファイルサイズは約4KBと非常にコンパクト。
- ▶ 使用されたグリフレットはドキュメント内に自動的に埋め込まれる。
- ▶ 結果、システム上のグリフレットの有無に関わらず、すべて表示、出力が可能。
- ▶ SING対応アプリケーションでのみ利用が可能。

グリフレットとは何か? SINGとは、無数に存在する外字(字形)をコンピュータ上で容易に再現するために考えられたアーキテクチャです。従来、文字コードに含まれない文字(字形)は、外字として作字するなど特別なワークフローを必要としていました。外字問題は、編集やデザイン、組版、校正、出力といった各工程において非効率な要因となっています。例えば、小説やマンガの吹き出しなどでよく使われる濁点付きの「あ」や、画数の多い漢字の例としてよく引合いになる「龍」などなど……。さすがのOpenTypeも外字問題がすべて解決できる訳ではありません。そこで登場するのが「SING外字ワークフロー」です。SINGワークフローでは、「グリフレット」(拡張子はgai)と呼ばれる小さなフォントファイルを用いたDesign CS2などのSING対応アプリケーションに埋め込みます。外字フォントをドキュメント自身が持つことで、各工程でグリフレットの存在を気にすることなく、入力や編集、出力などに一貫性を持った作業が可能になりました。グリフレットは、従来の文字コードを持った文字セットという考え方からは一線を画しています。グリフレットファイルは、1文字分の字形情報と付属情報(親フォント、字幅、読み、言語など)を持っていきます。つまり、文字の字形表現を文字コードと切り離し、完全な字形情報としてドキュメントに取り込んで運用するのです。



▶親フォントが指定されたグリフレットは、[すべての字形を表示]の状態、一番下までスクロールすることで、入力が可能です。

Q1

SINGを使うのに適した状況とはどんな時ですか？

A

インライングラフィックや特殊な人名、地名などのフォントに入っていない字形を即座に使用したい時などに最適です。市販の外字フォントを使用した場合、同じフォントがドキュメントを渡す相手の環境にあるかどうか確認しなければなりません。無い場合には、その外字フォントを購入する必要があります。また、印刷・出力会社へこのようなドキュメントを入稿する場合も慎重にならなければなりません。SINGの場合には、グリフレットがドキュメントに必ず埋め込まれるので、その心配は要りません。ただし、複数の相手と同じドキュメントを共有して常時使用する場合には、必要なグリフレットを共有する相手の環境にインストールして使うことをお勧めします。

Q2

現在、SINGを使用する上で注意することがありますか？

A

[全般の注意点]

- ▶ PostScriptベースのOpenTypeフォント（拡張子が「.otf」）のみで使用が可能です。TrueTypeフォント、TrueTypeベースのOpenTypeフォント（拡張子が「.ttf」あるいは「.ttc」）、CIDフォント、ラテン系のフォントなどでは使用できません。
- ▶ ドキュメントにグリフレットを入力するには「字形パレット」が唯一の方法です。
- ▶ グリフレットのコピー、ペーストはSING対応アプリケーション間でのみサポートされています。
- ▶ Illustratorではグリフレットの使用ができません。
- ▶ ユニコード値の無い文字、または共有されたユニコード値を持つ文字の検索・置換は制限されています。この制限はグリフレットにも当てはまります。検索・置換は同じユニコード値を持つ文字の違いを判断できません。そのため、グリフレットを検索・置換のダイアログにコピー＆ペーストしても正しく表示できません。

[グリフレットを作成する場合の注意点]

- ▶ 親フォントは日本語のOpenTypeフォントのみが日本語のOSで使用できます。中国語フォントなどを親フォントに指定しないで下さい。
- ▶ 親フォントは2つまで指定可能です。指定しない場合は、GenericフォントとしてInDesignの字形パレットとフォントリストに表示されます。



- ▶ 親フォントは2つまで設定できます。図のようにProフォントとStdフォントの両方で使用したい時に指定します。なお、記号などの非漢字で親フォントを指定したくない場合には「指定なし」を選択します。
- ▶ ユニコード値またはCID値をもとを持つ字形には、出来るだけ指定をしてください。
- ▶ 縦書きで全角1文字幅以上のグリフレットは現在正しく表示できません。

[グリフレットマネージャーで管理する時の注意点]

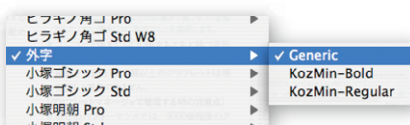
- ▶ 現在のパフォーマンスでは、3000個程度のグリフレットを管理、使用するのが適当です。
- ▶ 新たに複数のグリフレットを追加するのも、1つのグリフレットを追加するのも管理に掛かる時間は同じです。

Q3

同梱のグリフレットパックはどういったものですか？

A

Adobe Creative Suite 2にはグリフレットを利用したSINGワークフローを体験していただくため、小塚明朝Pro BoldとRegularを拡張する1000文字以上の漢字と150以上の記号や約物を、グリフレットパックとして同梱しています。フォントメニューの外字からそれぞれアクセス可能です。



Q4

出力に問題はありませんか？

A

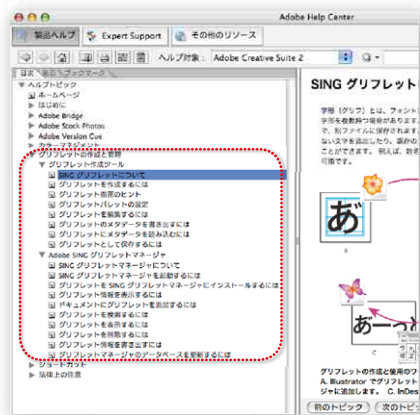
ドキュメントに正しく埋め込まれたグリフレットであれば、システム上のグリフレットの有無に関わらず出力可能です。PostScriptファイルやPDFに書き出した場合も、グリフレットはそれらのファイルに埋め込まれ出力が可能です。また、PDFをAcrobatで開いた場合も表示と出力が行えます。

Q5

詳しい使い方についての参照先はどこですか？

A

Adobe Help Centerから調べることができます。ヘルプ対象を「Adobe Creative Suite 2」として「▶グリフレットの作成と管理」より、各項目をご覧下さい。



▶グリフレットの作成と管理——ヘルプ項目一覧。

Q6

SINGの将来はどうなりますか？

A

SINGアーキテクチャは、フォントベンダーやアプリケーション開発者に広く供与されています。今後、さまざまなグリフレットパックやグリフレット作成ツールなどの登場により文字符号交換の問題や外字問題が解決できるようになるでしょう。

- ▶ **アドビ カスタマー サービス** Tel. ナビダイヤル 0570-06-7337または 03-5350-0407 電話受付時間 9:30~17:30 (土、日、祝日および弊社指定休日を除く)
- ▶ **アドビストア (注文専用)** フリーダイヤル 0120-61-3884

Better by Adobe.™

- ▶ **アドビ システムズ 株式会社** 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー www.adobe.co.jp

このカタログに記載の情報は、2006年1月現在の情報です。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe, Adobeロゴ, Adobe Illustrator, Adobe Reader, Acrobat, Distiller, GoLive, InCopy, InDesign, Photoshop, PostScript, PostScript 3およびVersion Cueは、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。MacおよびMacintoshは、米国および他の国々におけるApple Computer, Inc.の登録商標です。IntelおよびPentiumは、アメリカ合衆国および他の国におけるIntelコーポレーションおよび子会社の登録商標または商標です。PowerPCは、International Business Machines Corporationの米国ならびに他の国における登録商標です。MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国ならびに他の国における商標または登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。

©2005 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. ASJST556 2/06